



みくびだより

発行 御首神社社務所

御挨拶

謹啓 新緑の候、皆様におかれましては益々御清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、令和二年より延期されておりました、立皇嗣の礼に伴う神宮参拝が本年四月に行われ、その全ての行事がお済みになりました。改めて、心からのお祝いと皇室の更なる安寧をお祈り申し上げます。

さて、新型コロナウイルスとの共生は早くも三年目を迎え、その生活に少しずつ慣れも生じ、各方面では安全に配慮しながらも今までの状態に戻ろうと動き出しております。その一方で、人流の増加により感染者数が増加したとのニュースも耳に致します。聞くところによると、ゴールデンウィーク中、伊勢のおはらい町では身動きが取れないほどの人混みであったそうです。物事・行動の善し悪しの判断が難しい世の中ではありますが、日本人が古来より受け継ぐ、他人を思いやる慎みの心を再確認し、健やかな心持で過ごして行きたいものです。

又、国内・国外共に不安定な状態が続いておりますが、このような時こそ神道における「修理固成（つくりかためなせ）」と言う言葉を思い浮かべて下さい。国生みの際にイザナギ・イザナミ両命が天つ神より賜わった「この浮漂している土地を整えて固めて完成させよ」との言葉です。「浮漂した土地」を不安定な世と読み取り、日本中そして世界中が手を取り一つになり、世の中を整えより纏まった世界となる事を願う次第でございます。

最後になりましたが、皆様方の益々の御健勝を心より祈念いたしました。ご挨拶とさせていただきます。

祭事報告

▼年越大祓

十二月三十日



〈年越大祓 大祓詞奏上〉

一年を締めくくる神事で、殿内にて大祓詞を奏上し、その後参道横に設置の篝火にて、皆様が一年の下半期に知らず知らずの内に受け犯した罪・穢れを託した人形を、お焚き上げ致しました。

昨年もまた、申込み方法などに於きまして、新型コロナウイルスの感染予防に努めさせて頂きました。

▼元旦祭

一月一日

一年の初めの神事で、午前零時より、国の隆昌と世界の恒久平和を願い、肅々と齋行致しました。

また、拝殿前では多くの初詣の参拝者が、静かに手を合わせておみえでした。

▼左義長

一月十五日

境内に設けられました火炉前にて神事を齋行し、昨年一年間お護り戴きました御神符や御守・注連縄や縁起物を、感謝の祈りと共にお焚き上げ致しました。



〈左義長 火炉〉

▼浄火祭

二月三日



〈浄火祭 焚き上げ〉

御祈禱の際にご神前に奉られた金幣串を始め、祈願奉納された帽子や絵馬、また期間祈禱を受けられた方々の紅白串を、境内の火炉にてお焚き上げ致しました。

焚き上げは、神職等が大祓詞を奏上する中行われ、氏子区域から選出された三名の厄男たちが「何某、心願成就！」と唱えながら、絵馬や金幣串を次々と忌み火の中へ焼べてゆきました。神事終了後にはご参列の皆様が持参されたお帽子を感謝を込めて火炉の中へ投げ入れ、祈りを捧げておられました。

▼祈年祭

二月十一日

祈年祭は「としごひのまつり」とも言われ、例祭・新嘗祭と並ぶ重要なお祭りの一つとされており、

今年の五穀（米・麦・粟・豆・稗）豊穰を祈り、ありとあらゆる産業の発展、そして皇室・国家の安泰を願い齋行致しました。

▼鍬山神社例祭

三月十七日

当社の境内社として本殿の北東に鎮座し、豊受大神をお祀りしております鍬山神社の例祭を、滞りなく齋行致しました。



〈鍬山神社例祭 修祓〉

▼例大祭

四月二日

岐阜県に発令されていた、まん延防止等重点措置は、三月二十一日に解除されましたが、本年も感染予防の観点から、神興行事（子ども神輿・子ども打ち囃子・演芸）や参道脇の露店は中止し、神事に於きましても献幣使や楽人、助勤神職の参列をご遠慮頂き、神職と総代のみの少人数にて齋行致しました。

また、前日・当日の夜間に行われる試楽祭・本楽祭も録音した「うちはやし」を流し、奉納演奏に代えさせて頂きました。



〈昼の境内〉

当日は、例大祭を祝うかのよう

に境内の桜が満開を迎え、昼

間は桜と提灯、夜は桜と明かり

が灯された提灯と、何れの境内

も幻想的で魅力的でした。

来年こそは、盛大に例大祭を

齋行し、この素晴らしい光景を

多くの皆様にご覧頂きたいと切

に願います。



〈夜の境内〉

▼南宮神社例祭

五月四日

南宮大社より御分霊（金山彦命）を賜わり、本殿の相殿社として御鎮座しております南宮神社の例祭を、恙無く齋行致しました。

▼お田植祭

六月七日

境内に作られた神饌田前にて

神事が齋行され、神事後には宮

司により早苗の植え付けが行わ

れました。

尚、この苗は神職たちが大切

に育て、今年の新嘗祭（十一月

二十三日）にご神前にお供え致

します。

▼農休祭

六月十九日

この地方で、六月中旬から七

月上旬に掛けて多く見られる神

事です。田植えが無事に済んだ

事への感謝をすると共に、稲が

悪天候や害虫被害に遭わず、立

派に成長する事を願い齋行致し

ました。

▼月次祭

毎月一日・二十日に恙無く執

り行いました。

※一月一日は元旦祭が齋行さ

れたため、月次祭は行いません

でした。

ご奉納頂きました

境内入り口の大鳥居に掲げて

ありました神額は、長年風雨に

晒され続け、昨年の大雪も影響

し、木枠が一部落下するなど、

非常に危険な状態でありました。

当社氏子総代の槌谷雄蔵様よ

り、参拝者の安全は元より、朽

ちた神額では御神威にも関わる

一大事であるとして、新しい神

額をご奉納頂きました。

誠にありがとうございます。



〈真新しい神額〉

新しい神額は、例大祭前の三月二十九日に無事に掲げられ、木目が美しく非常に素敵な仕上がりです。ご参拝の際は、是非とも美しい神額をご覧下さい。

『本宗について』

ほんそう

「本宗（ほんそう）」という言葉をご存知でしょうか？本宗とは伊勢神宮（以下神宮）を指す言葉であり、神社界において神宮を仰ぐ言葉です。

「神宮＝本宗」と聞くと、全国の神社にとつての神宮は、他宗教で言う所の本山的な意味とお考えになる方が多く、本宗という言葉をご存知の参拝者からは、「本宗は本山の解釈が良いのですか」と質問を受ける事が多々ございます。

本宗＝本山と言ってしまうと、神宮と神社の間に、本山・末寺のような上下関係が出来上がってしましますが、各神社は神宮から枝分かれた存在ではなく、各個独立した存在（神宮と関係深き神社も在りますが）なのです。そのために本山と言う解釈は、本宗の説明として適当ではございません。

では、本宗とはどのような存在で、どのような意味を持つのかを簡単に説明いたします。

終戦を迎えた日本では、神道や神社が国家を軍国主義に導いた要因の多くを占めると考えていたGHQにより、神社と国家の関係が断たれようとしていました。（神道指令）

その中でも神社界は、特別な存在であった神宮を、宮内庁に移管し「神宮は皇室の個人的な神社であるため、国家の神社ではない」との位置付けをする事で、神宮を守り、皇室の關係存続を試みました。

それに対しGHQは、「神宮は皇室の個人的な神社なら、一般国民の崇敬や参拝は一切禁ずる」との条件を付してきました。また、当時のGHQは、皇室に対し皇室財産の解体など、経済的圧迫も行っており、宮内庁による神宮の維持運営も厳しく、国民と神宮の関わりが希薄になる事で、神宮信仰が失われてしまふ事態を危惧した神社界は、神宮を一般神社同様に国民の神社とする決断をしました。そして、神社が国家や皇室と切り離

された今こそ、神宮を中心として神社や国民が一つに纏まり、団結してゆく事を願ったのです。その結果、『神宮もまた一つのお宮であるが、他の一般神社とは別格の存在であり、最も尊いお宮である』との意味を込め「本宗」と言う言葉が作られたのです。

つまり「本宗＝神社の本山」では無く「本宗＝神宮＝最も尊いお宮の呼称」であり、先行き不透明なこんな世の中だからこそ、本宗の意味する所を知り、意識し、本宗を中心として国民全員が一致団結をし、様々な困難を乗り越えて行きましょう。

また、御守などをお渡しする際に使う紙袋などは、普通のゴミとして処分していただいで差し支えございません。

問 神社で御祈禱を受けた際に、お米やお酒などを戴きました。粗末にも扱えないし、どうしたらよいのでしょうか。また、御守を受けた時に、御守を入れてあった紙袋の処分についています。対処法を教えてください。

答 御祈禱の際に戴くお米などは、神さまへの御供え物を下げて戴くもので「撤饌」といいます。殆どが飲食できる物かと思えますので、皆様でお召し上がりになり、神様の御神徳を戴かれる事が一番良いでしょう。

また、御守などをお渡しする際に使う紙袋などは、普通のゴミとして処分していただいで差し支えございません。

纏め 神社からの戴き物や袋などを粗末に扱えないとお気持ちちは、篤い崇敬の念が在つての事と思えます。そのお気持ちを忘れず、日々のお護りに感謝すること、より一層の御神徳をお受けになれる事でしょう。



〈宇治橋〉

祭事案内

▼西宮神社例祭

七月十七日

商売繁盛や事業繁栄の御神徳
があります。蛭子命をお祀りする
西宮神社の例祭です。

▼末廣稻荷神社例祭

八月七日

京都の伏見稻荷大社より御分
霊を賜り、宇迦之御魂神をお祀
りしております。末廣稻荷神社の
例祭です。

例祭当日は、末廣稻荷神社の
参道に氏子の子供たちが描いて
くれた絵を行燈にして掲げ、夕
方には火を灯します。



〈末廣稻荷神社参道〉

▼夏越大祓

八月七日



〈茅の輪〉

当社では毎年夏に行われる神
事で、皆様が半年間の内に知ら
ず知らずに受け犯している罪・
穢れを人形（ひとがた）に託し
てお焚き上げし、残りの半年を
無事健康に暮らせませすよう願
います。

神事は、末廣稻荷神社例祭終
了後に、境内の遥拝所前（車
お祓いをする所）にて斎行され
ます。神事の後に「茅の輪くぐ
り」が行われ、ご参列の皆様は
神職に続いて茅の輪くぐりをし
て頂きます。

茅の輪くぐりは、当日の日没
までご参加頂けます。皆様揃っ
てご参拝下さい。

昨年までは、コロナ禍の為に
大きな人形（ひとがた）での申
込方法を執っておりましたが、
本年は従来通りの「一人一枚」
の人形でお申込み頂く事にな
りました。

人形と申込封筒は社頭にご用
意致しておりますので、必要事
項をご記入になり、申込封筒に
お志しと共に納め、社務所にお
申し込み下さい。

尚、ご不明の点は社務所にて
お尋ね下さい。



〈左：人形・右：申込封筒〉
※封筒のデザインは変わる場合があります

▼神明神社例祭

十月十七日

当社の境内社として本殿の北
西に鎮座し、天照大神をお祀り
する神明神社の例祭です。

崇敬会入会のご案内

本会は、「古来首より上の
諸病を憂うる者此の社に願え
ば靈験あらたか：：」と伝
わりし御首神社の御神徳に感
謝し、ご家族の諸病平癒・無
病息災・家内安全生業繁栄並
びに子孫繁栄を願う崇敬者の
会として設立されました。

入会を望まれます方は、社
務所までご一報下さい。
早々に案内資料をご用意させ
て戴きます。

会員の特典（抜粋）

- ・入会報告祭の実施
- ・誕生特別祈禱の実施
- ・及び祈禱神符の授与
- ・主要祭典のご案内
- ・昇殿参拝

会員の種類と年会費

個人	三千円
家族	五千円
特別	一万円
法人	二万円
名誉	三万円

〈お問い合わせ先〉

神社社務所まで
〇五八四一九一―三七〇〇

祭事案内

▼七五三

十月

七五三のお祝いは、平安時代の頃より公家の間で、三歳から七歳位にかけて男女の祝いの儀式が行われて来た事が始まりと言われております。現在では三歳・五歳・七歳と言う成長の節目に神社へ参拝し、これまでの無事成長を感謝し、これから先の健やかな成長を願う儀式として行われております。

一般的に七五三のお参りと申しますと、十一月十五日に行われます。その期日の起源につきましては諸説ございますが、江戸時代に五代將軍徳川綱吉が長男の徳松の成長を願って氏神様



令和4年 七五三

	数え歳	満年齢	
7歳	平成 28年 生まれ	平成 27年 生まれ	
	5歳	平成 30年 生まれ	平成 29年 生まれ
		3歳	令和 2年 生まれ

へお参りしたのが、十一月十五日であったとされ、その後広く庶民に広がったと言われております。

お祝いの年齢は古くから数え歳で、男の子が三歳と五歳、女の子が三歳と七歳でお参りされて来ましたが、近年では数え歳や満年齢関係無く、男女共に三歳、五歳、七歳の各歳にご参拝になり、ご祈禱を受けられる方が大変多くなりました。

右に記載の年齢表をご参考の上、ご都合に合わせてご参拝下さい。

七五三のご祈禱は十月から年末にかけて随時お仕えいたしております。(予約不要)

▼新嘗祭

十一月二十三日

例祭・祈年祭と共に、三大祭の一つとされ、古来より大切な神事として行われて来ました。その年の祈年祭にて祈願された五穀豊穰への感謝をすると共に、初物を神様に召し上がって頂く神事です。また、皇室のご安泰と国家の安寧をも願ひ齋行致します。

今年の六月より境内の神饌田にて育てられ、この秋に収穫する御初穂もご神前にお供えされます。

▼月次祭

毎月一日・二十日

末廣稻荷神社
参道幟 募集中

末廣稻荷神社参道の朱色の幟は、末廣稻荷神社の例祭(八月)とお正月に合せ新調します。



ご奉納頂きました幟は、約半年間に亘り参道に掲げられます。お稻荷さんと聞くと、商売繁盛を連想されますが、本来は穀物の神様です。命を育む上で最も大切であり、家内安全・子孫繁栄などにも繋がってゆきます。

八月取替予定の幟の申込にはまだ余裕がございますので、奉納ご希望の方は社務所までお申込下さい。随時先着順にて受付させて頂きます。

*幟一对 初穂料 三千元

編集後記

新型コロナウイルスとの共生も三年目を迎えました。少しづつ慣れも出てくる頃ですが、油断せずに感染予防に務めましょう。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町二二八三の一
Eメール shamusyo@mikubi.or.jp
TEL(〇五八四)九一三七〇〇